

徳島県英語教育推進計画COMPASS (案)

令和3年2月定例会(事前)
文教厚生委員会資料
教 育 委 員 会

1 基本的事項

(1) 趣旨

グローバル化が進展する社会を生き抜く『人財』を育成するため、「徳島県英語教育改善プラン」(平成28年度～令和2年度)の成果と課題を踏まえ、学校を取り巻く環境の変化に対応して、本県における英語教育の取組をより一層推進するための計画とする。

(2) 計画期間

令和3年度から令和7年度まで(5年間)



2 現状

「英語教育実施状況調査」結果より

生徒の英語力

【求められる英語力を有する生徒の割合】

中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上

徳島県中3生 ※全国44%

39%(H28)→49%(R1)

高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上

徳島県高3生 ※全国44%

36%(H28)→47%(R1)

言語活動の割合

【授業(50分)の半分以上の時間で
言語活動を行っている割合】

中学校 62%(H28)→91%(R1)

高等学校 54%(H28)→59%(R1)

パフォーマンステストの実施

【スピーキングテストとライティング
テストの両方を実施している割合】

中学校 89%(R1) ※全国86%

高等学校 38%(R1) ※全国36%

新しい学習指導要領への移行

外国語教育の早期化

ICT機器やデジタル教材等の整備

3 今後の方向性

- 児童生徒が英語を用いて互いの考えや気持ち伝え合う「言語活動」を通して学び、英語による発信能力(特に「話すこと」)を高めることができるようにする。
- 小学校から高等学校までを見通した学習到達目標を設定するとともに達成状況を適正に把握し、指導改善につなげる。
- 「生きた英語」に触れながら、実際に英語を活用する機会を提供し、児童生徒の英語学習への意欲向上を図る。
- 1人1台タブレット等のICT機器を効果的に活用し、指導の充実を図る。

4 今後5年間で重点的に取り組む施策

① 授業改善による児童生徒の発信能力の強化(特に「話すこと」)

考えや気持ちを
つたえあう授業

言語活動を通じた指導の充実

② 校種間連携の促進と指導のPDCAサイクルの徹底

小・中・高で
つながる指導と評価

小・中・高等学校の接続を意識した「CAN-DOリスト」の設定

パフォーマンステストによる達成度の把握

③ コミュニケーションツールとして実践的に英語を使う機会の提供

コミュニケーションのための
ツールとしての英語

学習段階に応じた英語体験活動の提供

国際交流、海外留学及び留学生の受入れ等の促進



1人1台タブレット等を最大限に活用

具体的な達成目標(令和7年度)

生徒の英語力

【求められる英語力を有する生徒の割合】

中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上

徳島県中3生・・・65%

高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上

徳島県高3生・・・65%

言語活動の割合

【授業(50分)の半分以上の時間で
言語活動を行っている割合】

中・高等学校ともに100%

パフォーマンステストの実施

【スピーキングテストとライティング
テストの両方を実施している割合】

中・高等学校ともに100%

3 つ の施策ですすめる英語教育

